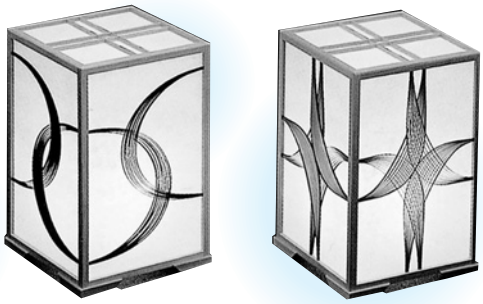
夢追い人



福岡県版「現代の名工」

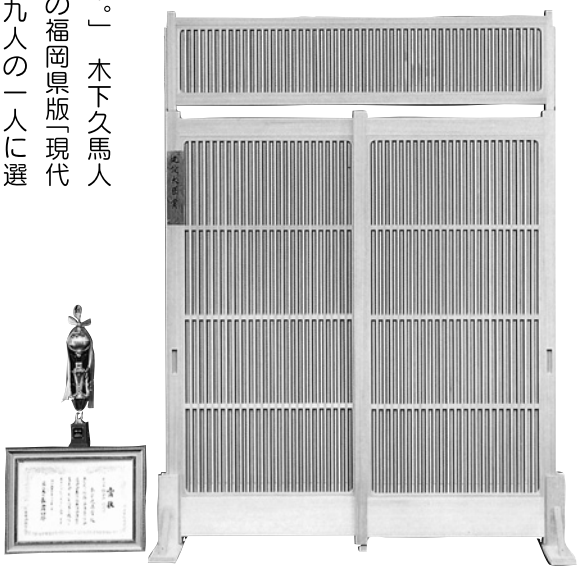
（有）木下建具

木下 久馬人 さん

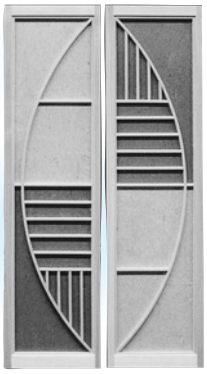
「これからも手仕事を大事にしていきたいですね。機械による作業は容易にまねできるが、身に付けた技術はけっしてまねできませんから…。」木下久馬人さんは、今年の福岡県版「現代の名工」二十九人の一人に選ばれ、その高い技術力が評価された。このことは質の高い作品が展示される「華宵の夢博」に、毎年のように入賞している事からも分かる。なんと過去九回中、建具部門トップが四回。審査員特別賞が四回という圧倒的な成績である。昭和五十二年全国建具展示会では、大川市初の入賞（建設大臣賞）を果たしている。

木下さんの優れた技術は、「絶えず学び続ける姿勢」にあるようだ。インタビューのなかでも、「勉強です」、「勉強です」という言葉が幾度も出てきた。若いころは、材料仕入のため関西を訪れると、京都に立ち寄って、古い町並み、家屋、内部の建具などをよく研究したという。今でも暇があると、建具に限らず、色々な展示会、職人展に出かけるそうだ。それに他人の意見に積極的に耳を傾け、それを反映させる柔軟さもある。

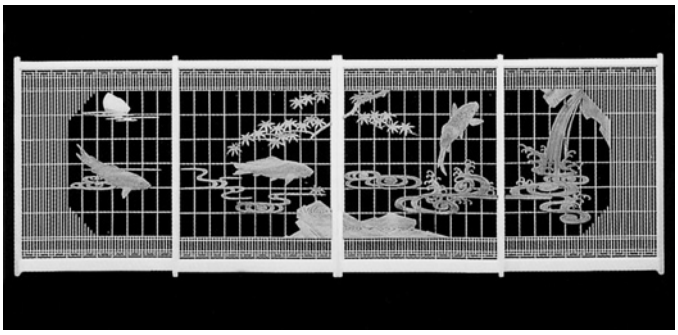
木下さんの製品は、素人目で見ても、非常にきめが細かい。細部まで繊細な神経が行き届いている。端正で美しい。製品の特色について木下さん自身「木が本来持っている木目模様、色合いが、製品のなかでい

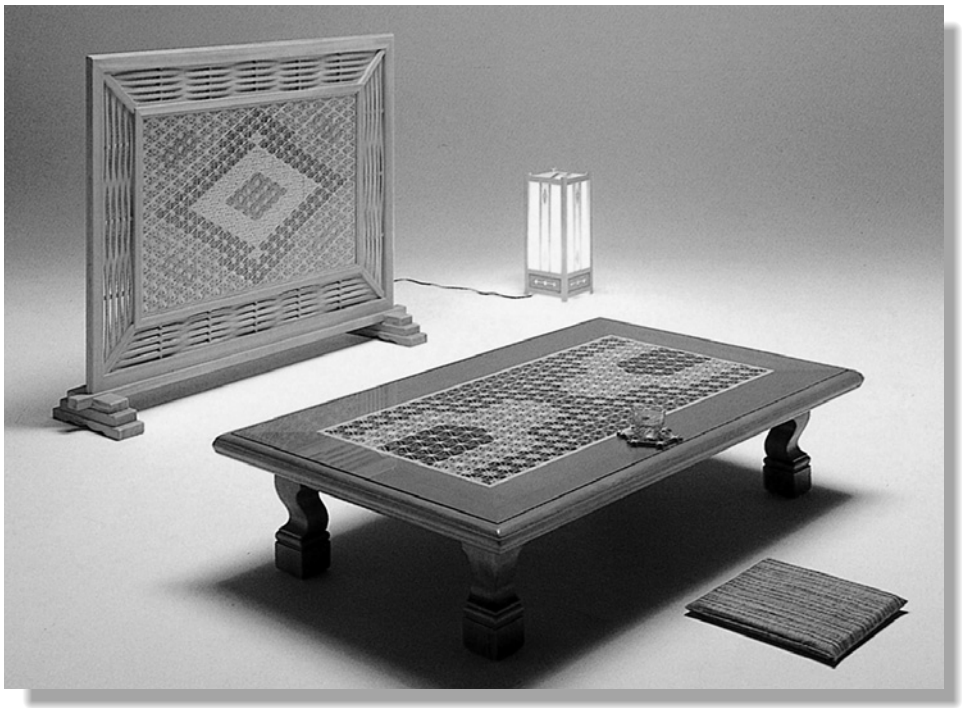


全国建具展示会で、大川初の入賞作品（建設大臣賞）



さまざまな組子細工がほどこしてある
（障子・明り取り窓・書院）





「これからも手仕事を大事にしていきたいですね。
機械による作業は容易にまねできるが、
身に付けた技術はけっしてまねできませんから…。」

かに調和し、均整がとれているか、気を遣っているところでしょうか。」という。

新築現場には、何度も足を運ぶ。寸法は勿論だが、壁の色合い、雰囲気、家主の要望をしっかりと把握するためだ。完璧に仕上げるために力を注ぐ。

材料にもこだわりがある。決して外材は使わない。主体になっている杉も全て内地材である。「外材は時間が経過すると変色し、黒くなっていきます。でも内地材は日本の風土にあっており、長く自然の色を保ちます」。といっても、職人にありがちな頑固な性格ではない。

本人は口べたと称されるが、非常に朗らかで気さくな方である。若い頃はスポーツマンで、草野球に熱中した。ゴルフにも良く一人で出かける。初対面の人たちともすぐに打ち解け楽しく、一緒にラウンドするという。

「今後も組子技術に長けた次男と共に、技術を磨きながら、質の高い製品造りに取り組んでいきたいと思います。」と語る。